

# 平成30年3月 全国百貨店売上高概況

平成30年4月20日

## I. 概況

1. 売上高総額	5,202億円余
2. 前年同月比	0.1% (店舗数調整後/4か月ぶりプラス)
3. 調査対象百貨店	80社 222店 (平成30年2月対比-3店)
4. 総店舗面積	5,604,953㎡ (前年同月比:-3.8%)
5. 総従業員数	69,415人 (前年同月比:-4.1%)
6. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	8-10月 1.2%、9-11月 1.4%、10-12月 -0.1%、 11-1月 0.1%、12-2月 -0.9%、1-3月 -0.7%

[参考] 平成29年3月の売上高増減率は-0.9% (店舗数調整後)

### 【特徴】

3月は、気温上昇による春物需要の高まりに加え、懸念を抱えながらも緩やかな景気回復基調の中、高額消費とインバウンドが引き続き好調に推移した結果、売上高は0.1%増と4か月ぶりに前年実績を超えてプラス転換した。

顧客別では、インバウンド(シェア5.6%/48.1%増)が、花見客を中心とした訪日需要の盛り上がりやリピーターの増加で、約290億円と過去最高(本年1月の約284億円)を更新。一方、国内市場(シェア94.4%/1.8%減)は前月から減少幅を改善したものの前年には届かなかった。

地区別では、10都市が1.0%増と8か月連続プラス。富裕層消費とインバウンド効果の高い6地区(札幌、東京、横浜、京都、大阪、福岡)で前年をクリアした。地方(10都市以外の地区)は1.9%減(11か月連続マイナス)と苦境が続いているが、前月より1.6ポイント改善した。

商品別では、主力の衣料品(0.0%)が回復の兆しを見せている。スプリングコートやジャケットなど季節商材の他、寒暖差の激しさからスカーフや帽子などの服飾品も動き、紳士(1.7%増)・婦人(0.1%増)共にプラス転換した。雑貨(7.0%増)は化粧品と高額商材(美術・宝飾・貴金属)が牽引し16か月連続プラス。ラグジュアリーブランドを中心に好調が続く身のまわり品(2.3%増)も3か月連続プラスとなった。一方、食料品(2.0%減)は、一部物産催事や和洋酒等を含むその他食料品(0.1%増)は堅調だったが、全般的には生鮮(4.1%減)を中心に低調に推移した。また、家庭用品(8.4%減)も売場リースによる面積減などから前年を下回る結果となった。

### 【要因】

(1) 天候 : 気象庁発表「3月の天候」の特徴は以下のとおり(一部抜粋)

◇南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、北・東・西日本で気温がかなり高くなった。また、降水量は北日本と東日本太平洋側でかなり多かった。移動性高気圧に覆われやすく、寒気の影響も弱かったため、日照時間は全国的に多く、東・西日本、沖縄・奄美ではかなり多かった。

(2) 営業日数増減 30.9日(前年同月比 +0.1日)

(3) 土・日・祝日の合計 10日( // +1日/土曜1日増)

(4) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数124店舗)

①増加した: 33店、②変化なし: 39店、③減少した: 52店

(5) 3月歳時記(ひな祭り、ホワイトデー、卒業・入学、新生活)の売上(同上/有効回答数85店舗)

①増加した: 15店、②変化なし: 52店、③減少した: 18店

## 全国百貨店 売上高速報 2018年03月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ( )が調整前

地区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%) ※
<b>全国</b>	<b>520,230,977</b>	<b>100.0</b>	<b>0.1 ( 0.1)</b>
<b>10都市</b>	<b>363,268,943</b>	<b>69.8</b>	<b>1.0 ( 2.0)</b>
札幌	13,960,611	2.7	1.8
仙台	6,820,279	1.3	-0.8
東京	141,542,399	27.2	0.1
横浜	31,266,765	6.0	2.7
名古屋	34,118,601	6.6	-2.1
京都	21,447,015	4.1	1.7
大阪	72,619,612	14.0	9.1
神戸	12,933,480	2.5	-28.9 ( -1.1)
広島	10,487,774	2.0	-1.7
福岡	18,072,407	3.5	4.2
<b>10都市以外の地区</b>	<b>156,962,034</b>	<b>30.2</b>	<b>-1.9 ( -3.9)</b>
北海道	1,616,680	0.3	-9.8
東北	8,098,906	1.6	-3.5 ( -6.6)
関東	71,509,947	13.7	0.3 ( -5.6)
中部	11,807,826	2.3	-0.7
近畿	19,651,198	3.8	-11.1 ( -4.7)
中国	11,477,324	2.2	0.7
四国	8,397,119	1.6	-3.2
九州	24,403,034	4.7	-0.9

第2表 商品別売上高

商品別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%) ※
<b>総 額</b>	<b>520,230,977</b>	<b>100.0</b>	<b>0.1 ( 0.1)</b>
紳士服・洋品	33,105,153	6.4	1.7 ( 1.0)
婦人服・洋品	103,230,014	19.8	0.1 ( -0.2)
子供服・洋品	21,464,013	4.1	-0.3 ( -0.9)
その他衣料品	10,698,369	2.1	-5.4 ( -5.6)
<b>衣 料 品</b>	<b>168,497,549</b>	<b>32.4</b>	<b>0.0 ( -0.4)</b>
<b>身のまわり品</b>	<b>67,877,745</b>	<b>13.0</b>	<b>2.3 ( 1.9)</b>
化粧品	52,116,452	10.0	15.8 ( 16.1)
美術・宝飾・貴金属	29,343,883	5.6	1.7 ( 1.0)
その他雑貨	19,652,978	3.8	-5.0 ( -3.0)
<b>雑 貨</b>	<b>101,113,313</b>	<b>19.4</b>	<b>7.0 ( 7.4)</b>
家具	5,629,812	1.1	-10.3 ( -10.8)
家電	1,035,564	0.2	-9.8 ( -10.1)
その他家庭用品	15,851,611	3.0	-7.5 ( -8.2)
<b>家 庭 用 品</b>	<b>22,516,987</b>	<b>4.3</b>	<b>-8.4 ( -9.0)</b>
生鮮食品	22,457,679	4.3	-4.1 ( -3.4)
菓子	45,251,139	8.7	-2.8 ( -2.1)
惣菜	27,861,119	5.4	-1.5 ( -0.7)
その他食料品	34,497,367	6.6	0.1 ( 0.3)
<b>食 料 品</b>	<b>130,067,304</b>	<b>25.0</b>	<b>-2.0 ( -1.4)</b>
食堂 喫茶	13,257,486	2.5	-1.6 ( -1.6)
サービス	5,492,884	1.1	-1.4 ( -1.1)
<b>そ の 他</b>	<b>11,407,709</b>	<b>2.2</b>	<b>-18.2 ( -18.2)</b>
<b>商 品 券</b>	<b>11,555,397</b>	<b>2.2</b>	<b>-6.4 ( -7.2)</b>

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

## Ⅱ. 地区別の動き

1. 10都市売上動向	1.0% (店舗数調整後/8か月連続プラス)
2. 10都市以外の地区売上動向	-1.9% (店舗数調整後/11か月連続マイナス)

### 【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
<b>10都市</b>	<b>1.0</b>	<b>0.7</b>	<b>8か月連続プラス</b>
札幌	1.8	0.0	2か月連続プラス
仙台	-0.8	0.0	2か月連続マイナス
東京	0.1	0.0	2か月連続プラス
横浜	2.7	0.2	8か月連続プラス
名古屋	-2.1	-0.1	2か月連続マイナス
京都	1.7	0.1	4か月ぶりプラス
大阪	9.1	1.2	15か月連続プラス
神戸	-28.9	-0.7	7か月連続マイナス
広島	-1.7	0.0	18か月連続マイナス
福岡	4.2	0.1	8か月連続プラス
<b>10都市以外の地区</b>	<b>-1.9</b>	<b>-0.6</b>	<b>11か月連続マイナス</b>
北海道	-9.8	0.0	18か月連続マイナス*
東北	-3.5	-0.1	7か月連続マイナス*
関東	0.3	0.0	2か月連続プラス
中部	-0.7	0.0	10か月連続マイナス
近畿	-11.1	-0.4	13か月連続マイナス
中国	0.7	0.0	4か月ぶりプラス*
四国	-3.2	-0.1	4か月連続マイナス
九州	-0.9	0.0	4か月連続マイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。(2005年までは6大都市)

### Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が16か月連続、身のまわり品が3か月連続のプラスとなった。また家庭用品が27か月連続、食料品が10か月連続、衣料品が4か月連続（-0.0% 前年並）のマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が36か月連続、美術・宝飾・貴金属が12か月連続、紳士服・洋品が3か月ぶり、婦人服・洋品が4か月ぶり、その他食料品が7か月ぶりのプラスとなった。

#### 【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
<b>総額</b>	<b>0.1</b>	<b>—</b>	<b>4か月ぶりプラス</b>
紳士服・洋品	1.7	0.1	3か月ぶりプラス
婦人服・洋品	0.1	0.0	4か月ぶりプラス
子供服・洋品	-0.3	0.0	6か月連続マイナス
その他衣料品	-5.4	-0.1	29か月連続マイナス
<b>衣料品</b>	<b>-0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>4か月連続マイナス</b>
<b>身のまわり品</b>	<b>2.3</b>	<b>0.3</b>	<b>3か月連続プラス</b>
化粧品	15.8	1.4	36か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	1.7	0.1	12か月連続プラス*
その他雑貨	-5.0	-0.2	11か月連続マイナス*
<b>雑貨</b>	<b>7.0</b>	<b>1.3</b>	<b>16か月連続プラス</b>
家具	-10.3	-0.1	6か月連続マイナス
家電	-9.8	0.0	2か月ぶりマイナス
その他家庭用品	-7.5	-0.3	24か月連続マイナス
<b>家庭用品</b>	<b>-8.4</b>	<b>-0.4</b>	<b>27か月連続マイナス</b>
生鮮食品	-4.1	-0.2	48か月連続マイナス*
菓子	-2.8	-0.2	4か月連続マイナス*
惣菜	-1.5	-0.1	6か月連続マイナス*
その他食料品	0.1	0.0	7か月ぶりプラス*
<b>食料品</b>	<b>-2.0</b>	<b>-0.5</b>	<b>10か月連続マイナス</b>
食堂喫茶	-1.6	0.0	11か月連続マイナス
サービス	-1.4	0.0	4か月連続マイナス
その他	-18.2	-0.5	3か月連続マイナス
<b>商品券</b>	<b>-6.4</b>	<b>-0.2</b>	<b>85か月連続マイナス</b>

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・橘・長柴 まで  
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>